

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪市立御幸森小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒544-0034

大阪市生野区桃谷5-5-37

E-mail e154102a@ocec.ne.jp

Website http://www.ocec.ne.jp/es/miyukimori-es/

幼児児童生徒数 男子 43 名 女子 34 名 合計 77 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「児童の自尊感情と郷土愛を養い、心豊かにしなやかに生きる力をはぐくむ」を研究主題として、「多文化」を学ぶことで、自己のアイデンティティを確立し、命を尊び、たくましくしなやかに自己実現に向けて生きていける力をエンパワメントすることをESDと捉え、ESDの実践を通して自主性、協調性があり自立できる力をはぐくむことを目標とした。

具体的には、国語科・社会科・生活科・総合的な学習の時間を柱に、①国際理解に係わる活動・学習、②多文化共生に係わる活動・学習、③地域理解に係わる活動・学習を行った。

① 国際理解に係わる活動・学習

毎年5月には、「世界一大きな授業」に取り組み、教育に関して世界の諸問題について学習している。また、9月には大阪市消防局が招いたさまざまな国々の消防・救急隊員とともに本校を会場として消防・救急訓練を行っている。訓練の合間には、隊員と交流を図るようにしている。このように世界の国々を身近に感じる取り組みを進める中で、外国の方と積極的にコミュニケーションを図るよう

にしている。

②多文化共生に係わる活動・学習

本校は、多くの児童が朝鮮半島にルーツをもち、課外の時間を利用して「民族学級」の取り組みを進めている。母国の文化や歴史を学ぶ中で、自己のアイデンティティーを確立していく取り組みとなっている。また、「民族学級」に参加していない児童には、「ユネスコタイム」という国際理解の時間を設定し、世界の文化や言語などについて学んでいる。9月には、全校児童が朝鮮半島の伝統的な遊びや文化に触れる時間「クムマダン（夢広場）」を開催し、多くの児童が楽しく隣国のことについて学ぶことができた。このような取り組みを通じて多文化共生を軸にした学校づくりをすすめている。

③地域理解に係わる活動・学習

伝承遊び体験（1年生）、地域たんけん（2年生）、商店街たんけん（3年生）、平野川の付け替え工事（4年生）、地域のものづくり（5年生）、地域の歴史（6年生）など各学年の生活科・総合的な学習の時間を活用し、低学年から地域との結びつきを大切にした取り組みを進めている。6年生は、地域にあるコリアタウンを社会見学で訪れる他校の児童に、フィールドワークの案内役（猪飼野ナビゲーター）として活動する取り組みを進めている。地域への愛着が、自分たちの「ホームタウン」を愛する契機となり、さらなる発展に寄与する子どもを育てることにつながると考えている。



① 世界一大きな授業



① JICA防災訓練



② 民族学級発表会



③ 猪飼野ナビゲーター

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 課外活動の時間・地域行事への参加 など)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

本校で作成したワークシートを活用。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、多くの朝鮮半島にルーツを持つ児童がおり、また外国にルーツを持つ児童も在籍している。彼らと共に多文化共生社会の担い手となる子どもらを育てることを主たる目的としている。

第1・2学年は生活科の学習を中心に、第3～6学年は総合的な学習の時間を中心に活動を進めている。また、国際理解・多文化共生・地域理解を本校の研究内容としていることから、各学年とも授業研究として取り組みの内容を公開するとともに、授業研究後は、討議会を開催し指導案や当日の授業について意見を交換し、次時以降の授業に生かした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内にユネスコスクール担当教員とは別に、外国人教育担当教員を設置し、相互が密に連携を図りながら日々の教育活動で中心となって活動している。また、課外の活動として民族学級の活動と国際理解の時間（ユネスコタイム）の活動を設定し、国際理解・多文化共生の基盤となる学習に取り組む時間を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年間に数回にわたり研修会を実施し、ESDについての理解を全教職員で図るとともに、6回の各担任による授業研究会のうち2回（第3・5学年）で外部の講師を依頼し授業研究について指導講評をいただいた。それぞれの授業を通して、教員や児童が本校の目指す多文化共生について理解し、考えを深めることはできたが、行動に移すことについては今後の課題となっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

年に1回、大阪市生野区の国際理解教育部の部員を対象に、国際理解教育の公開授業を行い、本校で取り組んできた国際理解教育について発信を行ってきた。また、大阪市全体で行われる国際理解教育部の発表において、本校での実践をもとに報告・発表することができた。ワークショップを行ったが、各校で実践できる内容になっていたため、それぞれの学校での取り組みについて後日報告を受けた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校を研修の場としてとらえる大学や諸団体が多くあり、本校の取り組みや授業の見学などで多くの機関が来校した。大学関係者などが来校した際には、学生もともに参加し、ゲストティーチャーとして児童へのかかわりを持ってもらうこともあった。また、ストレスマネジメントを実施し、大学教員を招いて取り組みを進めていくことを計画している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

韓国にある石峯(ソッポン)初等学校と2017年7月に姉妹校提携を結び、今後の取り組みについて話し合いを進めた。具体的には、石峯初等学校の児童とスカイプで交流を図る、石峯初等学校の児童を短期ホームステイで受け入れるなどの交流について話し合われた。2018年度には、児童間の交流をさらに深めていくことが確認されている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

第5・6学年で地域の特色である「ものづくり」と「歴史」について調べ、発信する活動を行い、「猪飼野ナビゲーター」として、社会見学などで地域を訪れる他校の児童・生徒のフィールドワークを担当している。子どもたちは、自分が暮らす地域のことを理解していくなかで、町の魅力を再発見することができた。また、他校の児童・生徒や教職員から称賛の言葉をいただくことで、自信を深めていくことができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

4月	民族学級・ユネスコタイム授業開き
5月	世界一大きな授業
6～12月	研究授業（国際理解・多文化共生・地域理解）
9月	クムマダン（朝鮮半島の遊び・楽器体験） JICA防災訓練
9～12月	地域理解学習集中月間
10月	伝承遊び体験
12月	民族学級発表会
3月	民族学級修了式

※ 年間を通じて、民族学級・ユネスコタイム（国際理解）の活動
※ これらのほかに地域の諸活動に参加